

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100231		
法人名	社会医療法人 健友会		
事業所名	グループホーム星取	ユニット名	
所在地	長崎県長崎市星取2丁目2-43		
自己評価作成日	平成25年2月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成25年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「星が取れるくらい夜空が美しい」と例えられるこの町は丘の上にある住宅地で、入居者様は地域自治会の会員として暮らしています。所帯は、入居者様9名・職員8名。1階は通所デイで、一緒に行事を行ったりにぎやかです。地域の皆様からは、花や野菜の差し入れがあり、地域夏まつりや敬老会・バザーなど、ご家族も一緒に参加して頂き、地域交流を楽しんでいます。日常生活では、入居者様のご希望に添い、ご自分のペースでゆったりと安心して過ごして頂けるよう支援しています。また、ホームにはアイドル犬がおり、餌やりの役目の方・抱いてかわいがる方等、とにもぎやかです。当ホームでは、ご家族・地域・ボランティアの皆様のご協力のもと、毎月外へ出かけています。長崎市の行事「おくんち」や「ランタン」・お買い物などは好評です。ホーム内では、リクエスト食で皆様のご希望の食事を作ったり、生け花教室・将棋教室・カラオケなど喜ばれています。医療では、週5日の内科往診で緊密な連携を行う事ができ、歯科往診も月2回、歯みがき指導なども適宜受け、連携強化を図っています。入居者様全員が笑顔で過ごすことができるようスタッフ一同 寄り添っていきたくと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム星取”は開設から5年目を迎えた。開設時からの職員も多く、ご利用者の方々と馴染みの関係が築かれている。新しい職員の方々が溶け込まれており、管理者(看護師)と共に素敵なチームワークが作られている。日々の暮らしの中でも“楽しみを探そう”と言う意識が更に高まり、“笑顔”が増える取り組みが続けられ、洗濯物のシワ取りや洗濯物畳み・米とぎ・おかずの味つけなどをしている。ご利用者同士の助け合う雰囲気も増え、穏やかに生活されている方が多く、24年度は、お花が大好きな方にプランターの苗植えと一緒に手伝って頂き、野菜の収穫を楽しむ取り組みも行われた。地域貢献も続けており、5周年を記念して催された“感謝のつどい”には80名の方が来て下さり、ハーモニカ愛好会の方の演奏や総科大沖縄出身会の方がエイサーを披露して下さるなど、思い出に残る1日となった。25年度には“救急サポートステーション”として、消防署の方の指導により、地域の方も一緒に救急講座を開催予定にしている。多くの方に支えられての5年であり、改めて“初心に立ち返る”機会を作りたいと考えられており、更なるレベルアップに向けたチーム力を、前向きに作り続けているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5月には、5周年記念「感謝のつどい」を行い、全体参加者は80名。事前に2回、地域の方と職員が地域訪問し、自治会にも2回回覧板を回して頂きました。前日には入居者様と一緒に小餅200個を作り、地域・ご家族様を皆でお迎えしました。	馴染みの職員が多く、“…「安全」「のんびり」「活き生き」その方らしい生き方を支援します”と言う理念のもと、ご本人の願いや思いの把握に努め、ご本人のお好きな事や得意な事ができる時間が作られている。毎月の行事では、家族と地域のボランティアの方と一緒に集う機会にもなっており、楽しいひと時を過ごされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・挨拶をきちんと、明るくするようにしています。 ・地域の行事準備の際は参加しお手伝い。 ・日常的に遊びに来て頂く。 ・おたよりを毎月配布。 ・学生の実習受け入れ ・外出時には近所の方にボランティアで参加していただく事もあります。	24年5月の“ケアホーム星取「感謝のつどい」”には、地域の方が来て頂き、お食事や踊りの披露などを楽しんで頂いた。毎月の自治会の会合にも管理者が参加し、情報交換を行っており、行事のボランティアに来て頂くきっかけにもなっている。地域の将棋クラブの方の方が来て下さり、ご利用者の方と対局して下さいました。	水族館の方が“小さな来訪者(イクキンチャクヒテ・魚など)”を連れて来て下さったり、系列の保育園児の子供達も来て遊戯をして下さり、ご利用者の方もとても喜ばれている。今後も地元の保育園児にも働きかけを行い、子供達との交流を増やしていく予定にしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣には、毎月「おたより」を配布し、「相談など気軽にお越し下さい。」と案内しています。運営推進会議では、皆様のご様子を報告・学習会なども行い発信しています。地域からの相談があった時には、包括支援センター・他施設などを紹介したりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、貴重なご意見を頂き、職員にフィードバックしてサービス向上に生かしています。	“ケアホーム星取「感謝のつどい」”では、委員の方も参画して下さい、地域のご案内から協力して下さいました。会議では身体拘束廃止の研修報告も行われ、“虐待”に関する意見交換等も行われた。「映画の日」等の提案も頂き、ご利用者の方も「映画が大好きです」と言う会話に発展する等、常にご利用者を想ったのアイデアを頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「ホーム便り」の送付・運営推進会議での情報交換・一人暮らしの方の情報、相談など連携しています。	管理者が長崎市GH協議会の監査役をしており、市の方との意見交換も行っている。地域の方の介護相談にも乗っており、必要に応じて地域包括の方や市役所の担当者にも相談しながら、解決策の検討が行われている。ノウウイルスが流行した時には、市の保健師が運営推進会議で「感染防止」の講和をして下さった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」ホームの方針はスタッフ一人一人に定着しており、日常生活の中で、入居者様が笑って暮らして頂ける事を考えケアを行っています。(カンファレンス・個人面接時にも確認)	外部研修の受講後、職員全員に伝達研修が行われ、職員からも「馴れ合いになっていないか」「日頃の言動はご本人にとって快ち良いものであるか」などの振り返りが行われた。今後も業務優先にならず、お互いの言動を注意しながら、丁寧な対応を心がけていく予定にしている。ご利用者の方々は穏やかに過ごされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	24年2/14「生きること支援と職業倫理」・「虐待のない尊厳ある介護のために」に参加したスタッフがチューターとなり全体討議を行いました。11/2市集団指導を回覧・検討。25年2・3月の虐待防止研修会に全員参加予定です。		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	9月「福祉の理念」学習の中で、権利擁護についても学習を行い周知しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様が入所・退所の際は、それぞれの方に不安がないよう契約の説明・対応を行いました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族・地域の皆様のご意見や要望は、日常生活の中・面会時・運営推進会議時など、あらゆる機会にお話を伺い、運営に反映させたいと考えています。(職員一同)	担当者が家族に暮らしぶりの報告(お便り)を毎月しており、面会時にも「ご希望はありませんか」と尋ねている。管理者が自宅訪問し、家族の思いを伺う機会も作られている。家族からの希望もあり、日曜日に行事を行う機会を増やしており、家族の参加が増えてきている。ご利用者の方にもリクエスト等の希望を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	●報連相ノートの活用、日常やカンファレンスで上がってくる事柄を大切に、反映させています。●3月には、個人面接を行い意見交換をおこないます。●研修会・学習会終了後食事会など行っています。	日常の中での気づきが沢山あり、朝の申し送りやカンファレンス・報連相ノート等で情報交換が行われている。報連相ノートには、職員が疑問に思った事も記載されており、提案については管理者が前向きに受け入れ、改善が行われている。意見交換された内容を「記録」に残す事も大切にしており、情報共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については、国策で一部定給・賞与に反映されていますが、生活を維持する面において不足している事には変わりなくスタッフの頑張りに見合っていない切実な問題です。介護福祉士など取得すると昇給するシステムです。公休・年休は希望を最大限に受け入れています。希望休や年休は出来るだけ希望を叶えるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は随時希望が出せるようにし、参加を保障しています。面接は、育成面接の要素をもって臨んでいます。介護手順チェックリストで各自が自分のレベルを確認しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎グループホーム連絡協議会において、役員としての役割を担い、スタッフも担当者を中心に研修会や懇親会に参加しています。また、施設相互訪問をし、「看取り」などの情報交換を行いました。法人内にも事例を持って参加しています。		

自己	外部	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込みの時は、見学をして頂き内容を説明し、不安な事やご要望について把握しています。また、家庭訪問や関わりのあるケアマネ・介護担当者との情報交換を行っています。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の見学は多く、現状をお尋ねする中でご不安や疑問などにお答えし、お茶して頂く事もあります。申請された後は8月・1月頃におたより・アンケートを送付し、緊急性はないか、お困り事はないか、現状などお尋ねし信頼関係を持つようになっています。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・複数の職員でお話を伺う中で、「今」必要な支援・対応を確認し、必要時変更し対応に努めています。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること・できないことをスタッフで確認し、生活を共にする・・という視点で支援しています。時にレベル低下がみられたり、ご本人様の支援要求が強い時には臨機応変でご本人様に寄り添い考えて支援しています。(～せねばならない)はない。)
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の絆を深める意味でおたよりと日常のご様子を毎月送付し、キーマン以外の家族の方へもご希望があれば送っています。写真を毎回載せ送る事でご面会の方もわかります。行事の折は参加して頂き、臨時診療の際は、ご協力をお願いし同伴して頂くこともあります。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、おたよりを送ったり、行事・バザーへのお誘いをしています。 地域行事の敬老会やバザーに参加すると、馴染みの方とお会いする事も多い。外出の時には、通い慣れた場所や馴染みの市場などに行き、ご利用者とお話をしながら外出を楽しまれている。併設の通所サービスに馴染みの方もおられ、時々訪問して交流をしている。昔を懐かしむために“昭和館”にもお連れしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、相性があったり合わなかったり、トラブルになる事もあり、座席を替えたり、間に入りトラブルを防いだりしていますが、入居者様同士寄り添い、誘導しあったり、助け合う場面が、よく見受けられるようになりました。。

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られたT様は、その後も遊びに来られており、介護者の方のお話を聞いたり、行事は誘ったり、散髪の際はご連絡したりして、交流している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、リクエスト食の日を作り、入居者様の食事の希望を聞いています。昔、将棋指しになりたいと仰ったK様には将棋指しの相手に、友の会の将棋クラブの方達に月1回来て頂き、将棋を楽しんで頂きました。	センター方式を活用しながら、生活歴や特技を把握すると共に、ご本人の喜怒哀楽にも寄り添っている。少しでも“生き生き”とした表情になられるように、ゆっくりとその方の目を見ながら思いを伺っており、「何が食べたいですか?」「行きたい所はありますか?」と希望をお尋ねするようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境などは、家庭訪問したりご本人・ご家族にお尋ねしたり、会話の中で見つけ出したりして把握には努め、日常生活の中で生かすようにしています。(生活パターンの保障・好きな馴染みのある家具・お仏壇のご飯・水変えなど)			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、バイタルチェックをした後は、皆様一同に集まり、一緒に体操やレクレーションを行います。大体、その日の体調がわかり、その後は、アイドル犬のモンを抱く方、マッサージを受ける方、テレビを見る方、それぞれの方の生活・心の動きがあり、把握して支援を行っています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方について、ご本人を交えご家族と話しご意見を伺い介護計画を作成しています。ご家族様からは、元気に転倒せず過ごしてほしいが多く、ご本人様からの要望は少ないです。	計画の中には、“パッチワーク等を職員に教えて頂きます”“婦人部の缶拾い”“買い物に行く”“モンちゃん(愛犬)と遊ぶ”“野菜の苗植え”など、ご本人の楽しみや役割も明記され、日々の生活で実践されている。細やかな手順も記載されており、ご利用者にも伝わる表現になっている。医師からの指示も頂き、計画に反映されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫は多いが、個別記録に介護計画を意識しての記載は少なく、介護計画を主軸としてケアに活かし情報を共有しながら実践していきたいと思います。この間、システムを明確にしました。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共に生活をしている・・・という視点から、臨時受診はご家族に連絡の上、臨機応変に受診体制をとったり、面会の方とも一緒にお食事を召し上がって頂いたりなど、その場に応じて対応する事は多く、スタッフは入居者様にとり何が今大事で、何を支援するかをそれぞれが柔軟に考え取り組んでいます。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当ホームの周囲は住宅地で、商店・銀行・美容院・役所・学校など車を利用しなければ行けない環境にあります。車で買い物ツアアなど行い喜ばれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・入居者様のご希望は大切にしようと考えていますが、現在の所、かかりつけ医を皆様希望されています。歯科は週2回往診して頂いています。	管理者が看護師でもあり、職員の観察力も増しており、異常の早期発見(治療)に繋げる事ができている。かかりつけ医には往診時(週5回)に細やかに報告しており、ゆっくり診察して頂いている。家族が受診助している方もおられ、受診結果の共有もできている。マッサージの方も訪問して下さっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、連絡・連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同じ法人の診療所・病院であり、看護師が勤めていた経緯もあって情報交換・関係づくりは良好です。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方については、入所時「看取りの指針」を提示し紹介しています。ターミナル期にあつて医師の診断のもと、ご本人の意向を汲み、ご家族・関係者と相談し方針を決めチームで取り組んでいます。	管理者は訪問看護の経験もある。終末期ケアに向けた話し合いが続けられ、ご本人の希望があれば、最期まで精神誠意のケアをさせて頂いている。「自宅に帰りたい」と言うお気持ちを察する事ができた方には、管理者も自宅訪問を続けながら、主治医の支援もあり、家族に囲まれて自宅での看取り支援が行われた。ホームでも最後まで将棋の支援を続けてこられた方で、家族からも感謝の言葉を頂く事ができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練時、救急処置・AEDについて学習を定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご近所から5名の方を災害時の協力員として登録し、日中は、ご近所のパルドライの職員の方も支援して下さいます。	24年度は、ご利用者や併設のデイの職員、地域の方にも参加頂き、職員の連携強化を目的に昼間想定避難訓練が2回行われた。消防署の指導も受けており、25年度は夜間想定訓練も行う予定にしている。自動通報は地域の方にも連絡が行くシステムで、災害に備え、飲料水や缶詰、ラジオ等が準備されている。	

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「接遇」は、それぞれのスタッフは、良いと思っています。定期的に接遇の学習会を行っています。一人一人が振り返りの気持ちを持ち、常に学んでいかなければと思います。	「ご利用者には人生の先輩として敬意を払い、言葉掛けや態度はやさしく丁寧にいきましょう。笑顔で接しましょう」という管理者からの指導が続けられている。ご利用者への思いやりが強い職員も多く、言葉遣いへの注意もしており、人権尊重、接遇などの法人内研修も行われている。情報管理の徹底も図られている。	今後も、職員個々が自分の言動を振り返る機会を作っていきたいと考えている。やさしく丁寧なケアが行われているか、黒衣(くるこ)の介護を身につけられているかの確認と共に、改めて“初心に立ち返る”方法を職員全員で検討していく予定にしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での誘導時の声かけは選択できるように、お尋ね「トイレに行きますか?」「どちらにしますか?」と行い、にお一人お一人を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、お一人お一人起きる時間も違い、その方に合わせて食事を提供しています。～せねばならない～という事はなく、入居者様の思いが第1と考えてはいます。毎日新聞をとり読まれている方もおられます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居間には大きな鏡があり、朝の洗面時には、皆様 鏡を見て身なりや髪を整えておられます。散髪は2カ月に1回で入居者様の意向に添って行われています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁を注いだり、盛り付けをして下さったり、無理強いする事なく準備お願いし、入居者様と職員と一緒に going to しています。常に「ありがとうございます。」と感謝の言葉を添えています。	昼と夜は、栄養管理ができています。月配を利用している。月に2回のリクエスト食やおやつ作り時は、ご利用者と一緒に作り、盛り付けや片づけ等もして下さっている。回転寿司などの外食も楽しまれ、敬老会や望年会は家族や地域の方も招待し、ハイキングを楽しまれている。24年度からプランターでの野菜作りも楽しまれている。	ご本人のペースでゆっくりと食事をされており、職員も笑顔で同席し、食事介助をされている。今後は更に、家庭的な雰囲気の中で“食事を一緒に楽しむ”方法を、職員全員で検討していく予定にしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューが決まった食材が届くシステムで、栄養バランスは栄養士チェックのもと、行われています。水分量の少ない方は、水分量をチェックし、その方に必要な目標量を支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人の力に応じた口腔ケアの支援をしています。2週間に1回は歯科往診があり、口腔点検・ケア・治療をして下さいます。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の力に応じトイレ排泄を支援しています。	排泄が自立し、布パンツを着用されている方もおられる。個別の排泄パターンを把握しており、必要に応じて個別の誘導を行う事で、昼間の失敗はほとんど少なくなっている。トイレには暖簾をかけ、ドアを閉めるなど、羞恥心への配慮も続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給のチェックをしています。その方に応じて排便の性状・回数調査し、便秘薬の調整(種類の変更・時間の見直し)を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皆様入浴を楽しみにしておられます。入浴時間は、隔日で日中が基本で必要時シャワー浴など行っています。ご希望や入浴の変更から続けて入浴を行う事もあります。ご希望が夕方や夜・というのはありませんが、マンパワー上無理でもあります。	入浴好きな方が多く、洗える所はご自分で洗われている。入浴を好まれない時には無理強いをせず、時には「温泉へ…」とユーモアを交えた声かけをしている。入浴の時には職員との会話を楽しまれ、柚子湯や菖蒲湯なども行われている。入浴後は保湿剤を使用したスキンケアも行われ、整髪も毎日されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中は起きて頂くようにしていますが、それぞれの方の状況に合わせて休んで頂いたり、好まれる方は意志を尊重し、自由にして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能書きを常に確認できる所へ置き、臨時薬や変更がある時は、伝達ノート・申し送りをきちんと行うようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダー作りは、娘様へ渡すプレゼントの一つ、と毎月楽しみに作るM様。おやつ牛乳瓶の片付けはK様。米とぎや食材の支度・味見などそれぞれの方のお力をお借りしています。毎週土曜日は気分転換に外出ヘルパーさんと浜ブラされるN様。男性スタッフが大好きなT様は、傍にいただけでもお幸せそうです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度は行事として外出を入れ、ご家族・ボランティアの皆様のお力をお借りしています。2階の扉を開けたら外という考えで、散歩の支援にも努めています。	毎月の外出を楽しみにされている方が多い。ランタンやくち見物等の馴染みのお祭りへの参加と共に、伊予島や香焼、中島川等にお花見に行かれたり、式見ハイツでの観劇も多様に楽しまれた。外出時は家族やボランティアの方の協力も頂き、一緒に楽しむ機会が作られている。家族と一緒に外食や自宅に戻り食事をされている方や、ガイドヘルパーとの外出で、毎週買い物に行かれている方もおられる。	

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は4名です。ご家族がお渡しになる方は、自己責任という事で、職員は管理しておらず、ご家族にも了解を得ています。入居者様の管理能力はそれぞれの方で違い、その旨もご家族にはお話し、なくなっても支障のないよう配慮して頂いています。出掛ける際は、個別にお金を準備し支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ年賀状をお出ししたり、お世話になっている・タクシーの運転手さんヘルパーさんにお礼のはがきなど支援しています。電話がある時・したい時はおつなぎしています。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・居間・居室では、不快な臭いがないよう、毎日スタッフが高圧洗浄の掃除をし、特にトイレ・ポータブルトイレについては念入りに行っています。掃除時は換気・各居室の温度・湿度も気配りし洗面台には水を張ったり、風邪を引きやすい方は加湿器を使用。居室のドアには、とっておき写真とお名前のお札があり、ご自分の部屋を確認しておられます。居間・居室には生花を飾っています。	24年度にはテラスのプランターで苗植えし、日々の手入れや収穫を利用者の方がして下さっている。地域の方がソファをプレゼントして下さったり、長いすの肘かけ部分を職員が作って下さり、居心地良く座られている。ボランティアの方の生け花教室も好評で、季節の花が飾られている。リビングではセラピー犬のモンちゃんがお癒しになっており、温湿度の管理や換気、掃除も行っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のスペースは、アイドルの犬のモンとの語らいの場所です。時にソファで横になったり、居室に入りテレビを見たり、居間で洗濯物を畳んだり、思い思いに暮らして頂いています。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、ご家族様へ「馴染みの物をお持ち下さい。」とお願いをしています。箸はご自分の物を使っておられます。短期記憶障害の方には、スタッフ・入居者様の写真を壁に貼り、不安がないようにしています。	お部屋の中には、ご本人が作られた作品や写真、職員手作りの感謝状などが飾られている。使い慣れた椅子やテレビ、筆筒等を持ってきて頂いており、仏壇を置かれている方もおられる。近くの自宅が見える居室の方もおられ、毎朝、家族と手を振り合う姿も見られている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	針仕事をされる方は糸を通してお渡しします。後から返しに来られます。ジャガイモや渋柿の皮は包丁で剥かれます。煮炊きをお願いする事もあります。	

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	水族館の方が「小さい来訪者(イソギンチャク・ヒトデ・魚)」を連れて来て下さったり、系列の保育園児の子どもも来て遊戯をして下さり、ご利用者の方もとても喜ばれている。今後も、地元の保育園児にも働きかけを行い、子ども達との交流を増やしていく予定にしている。	近隣に保育園はなく、系列の保育園児が遠方より来て下さっているが、地元にも保育園がないか・交流ができないか等を調べ働きかけをしたい。	自治会や地域の皆様との情報交換や、職員のアンテナを張り巡らせ協力をお願いできる地元の保育所を調べます。	12 ヶ月
2	20	お誕生日の月を「特別な日」として、個別にご要望を伺いながら、楽しいひと時になるように更なる企画を検討予定にしている。以前住んでいた家にお連れしたり、希望に応じた外食の機会も増やしていけばと考えている。	お誕生月には、入居者様の特別な月として馴染み・懐かしさの場を探索したり、ご希望が叶うよう支援していきたい。	担当者が、入居者様のご希望を聞き企画します。前月に企画・勤務調整を行います。	2 ヶ月
3	36	今後も、職員個々が自分の言動を振り返る機会を作っていきたいと考えている。やさしく丁寧なケアが行われているか、黒子(くろこ)の介護を身につけているかの確認と共に、改めて「初心に立ち返る」方法を職員全員で検討していく予定にしている。	平成23年度に、「スタッフの入居者様へのお約束」を職員全員で作りました。・入居者様の尊厳を傷つけたり、誤解を与える様な言葉がないかグレーゾーンについて常に考え行動します。・あたたかくなる笑顔、言葉かけ。それらを再認識して実践に移します。	平成25年度の第1の目標に掲げ取り組みます。	6 ヶ月
4		ご本人のペースでゆっくりと食事をされており、職員も笑顔で同席し、食事介助をされている。今後は更に、家庭的な雰囲気の中で「食事を一緒に楽しむ」方法を、職員全員で検討していく予定にしている。	入居者様と一緒に食べる事により、場が明るくなります。皆様に食事を楽しんで頂くようにします。	どのようにすれば実現できるかを、職員全体で討議し取り組みます。	6 ヶ月
5					ヶ月